
やさしさ。

カフ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

やさしさ。

【Nコード】

N0614J

【作者名】

カフ

【あらすじ】

誰もがみんな1人では生きていく事は出来ない。風はある日うちあげられた魚を助けてあげた。その風のやさしさが流れ流れて、一人の青年の人生を変える。きっと世界はどこかでつながっていると作者はおもったのだ。

風はある日、川の近くにうちあげられた魚を見つけた。

「風さん。助けてください」魚は叫んだ。「おやすいごようさ」
風は答え、そつと魚を川に戻してやった。「風さんありがとう」魚は
「魚さん。助けてください」犬は叫んだ。「なに、今助けるよ」

魚は答え、犬を陸に押し上げてやった。「魚さんありがとう」犬は
そう言つて尻尾を振り、魚もそれに答えて尾ひれを振った。犬は魚
の姿が見えなくなるまで尻尾を振り続けた。魚がみえなくなると犬
は自分の家へとかけて行つた。

「ありがとうございます」コンビニ定員の無機質な挨拶を背に
受けながら僕は歩き出した。僕の手はさっき買ったライターの適度
な重みを感じていた。

僕はこれまでの人生でこれといった友達もいなかったし、これと
いつて幸福なこともなかった。無気力に毎日を過ごしていた。

真夜中、ふと目が覚めた。もう一度寝ようとしばらくベッドで丸
くなっていたらふと目から涙がこぼれた。訳のわからない焦燥感に
駆られたのだ。そして僕は人生に限界を感じた。

練炭自殺が一番楽な死に方と誰かが言っていたのを思い出して、
僕は部屋の窓全てを閉め、七輪に火をつけようとした。が肝心のラ
イターが無い、仕方なく僕はそとに出てライターをかうことにした
のだった。

「はあ」とため息がこぼれ、それに呼応するかのよう僕の中で
力が抜けライターが自分の手から零れ落ちた。しかし僕はライタ
ーが落ちたことにその時気づかなかった。ただ頭の中は真っ白で何

も考えたくなく、何も感じたくなかった。

しばらく歩くと後ろから足を何か暖かい物にぐつと押された。振り返ると犬がさつき落としたライターを啜っていた。

「届けてくれたのか？」僕はそう言うと、犬は短くほえた。「ありがとう」僕は素晴らしい、犬からライターを受け取った。すると犬は後ろにくるりと踵を返しとことこと歩いていった。

空っぽの僕の中に何かが染みていくのを感じた。目を閉じ深呼吸する。目を開けよく前を見ると円盤と銀色の服を着た男が遠くの方にいた。

男は片方の手を腰に当て、もう一方の手で頭を掻いていた。よくみると円盤から煙が出ている。僕は気がつくのと彼の方に駆けていった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0614j/>

やさしさ。

2011年1月19日07時07分発行